新聞に親しみ、自分の考えを豊かに表現できる生徒の育成

西都市立三納中学校
教諭　岩倉　徳生

1　はじめに

「知識基盤社会」と言われ、複雑で多様化した現代を生きる生徒たちにとって、新聞に親しむことは、そのこと自体に重要な意義がある。新聞は、さまざまな情報を得ることができ、いつでも、何度でも読め、知的好奇心追究への入り口とも言える情報媒体である。

本校は、九州山地を源流とした清流三納川が学校のすぐ近くを流れ、豊かな自然に恵まれた田園地帯に位置している。教育に対する関心が高い土地柄で、学校の教育活動への協力や支援を惜しまない風土がある。新年度及び２学期・３学期の始業の日には、「三納地域づくり協議会」の役員の方々が、早朝から正門前に立ってくださる。その際、心のこもったメッセージカードを、登校してくる生徒一人一人に手渡しされながら激励の声をかけてくださっている。

現在、全校生徒数は６０名で、隣接する小学校１校からのみ入学してくる生徒たちにより構成されいる。年々生徒数が減少している小規模校であり、平成２５年度からは、三納小学校との一貫教育校になる予定である。

学校の雰囲気は全体的に落ち着いており、素直な生徒が多く、大きな問題行動や不登校の生徒もいない。ほとんどの生徒が小学校から９年間を一緒に過ごしてきており、３年生を中心に団結する力があり、各種の学校行事や生徒会活動に全力を尽くす。一方では、固定化された人間関係による小さなトラブルや、なれ合いからの配慮に欠ける言動が見られることもある。

また、学力の面では女子が優位で男女の差が顕著であり、このことは改善が必要な重要課題の一つである。

新聞を活用した学習としては、ＮＩＥ実践校としての指定を受ける前の平成２０年度から、取り組んできた実践がある。それは、生徒全員が週末の課題として家でノートやワークシートを使って、新聞記事やコラムを書き写した上で、要約と感想をまとめる学習である。

ＮＩＥ実践指定校の２年目として、これまで取り組んできた新聞を活用した学習に加えて、定期的に作文を書き、新聞に投稿する取組を行ったきた。

小規模校ならではの利点として、国語科だけでなく、各学年の担任と副担任が関わって新聞を活用した学習を点検したり、生徒に助言を行ったりする点が挙げられる。ＮＩＥの担当として、「新聞に親しみ、自分の考えを豊かに表現できる生徒」をテーマとして、全職員が関わってきた本校の実践について述べたい。

新聞購読に関しては、年間を通して３学年に１部ずつ宮崎日日新聞を配当し、加えて２学年と３学年は、日本経済新聞、西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞を４カ月ごとに配当し、２年生と３年生はクラスに常時２社の新聞を置くようにした。

(2)　生徒作文の新聞への投稿

昨年度の２学期から、月に１回テーマに沿って生徒全員に作文を書かせるようにした。その中から、各学年で優秀な作品を２点ずつ選定し、計６点を新聞に投稿（宮崎日日新聞「若い目」欄）してきた。

2　実践の概要

(1)　コラムや記事の視写と要約及び感想を書く活動

(2)　生徒作文の新聞への投稿

(3)　ＮＩＥコーナーの設置

(4)　新聞記事を活用した授業

3　具体的な取組

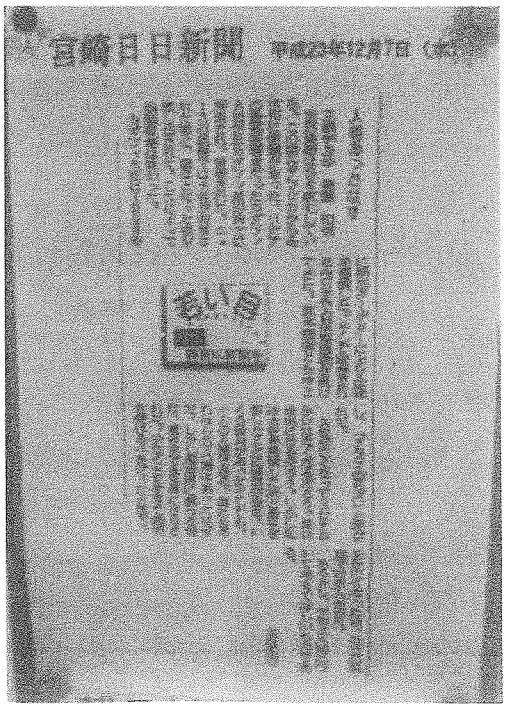
(1)　コラムや記事の視写と要約及び感想を書く活動

新聞記事の活用の仕方としては、３年生は指定したコラムを中心に、１・２年生は主に自分で選んだ記事を使って、毎週末の課題として、全文を書き写した後に要約して感想をまとめる学習をしている。課題は、月曜日に提出し、各学年の職員が点検を行ってから生徒に返却している。

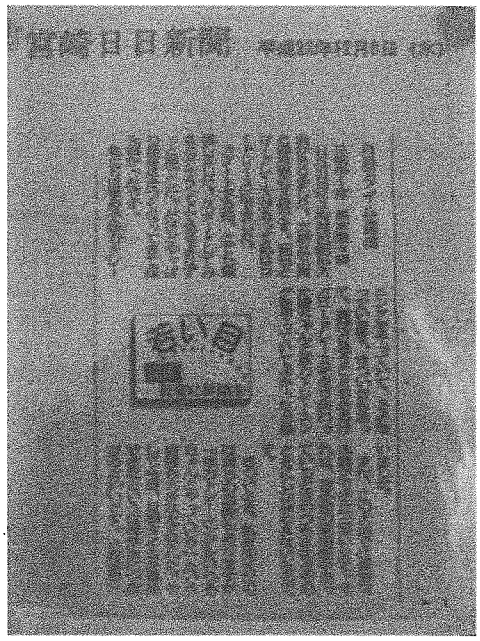
(2)　生徒作文の新聞への投稿

作文の内容については、学校行事を中心にしたものと「さいと学（総合的な学習の時間）」の授業で学習した福祉に関する内容や、新聞記事の感想及び自由なテーマとしている。

（資料１：新聞に掲載された３年生の作文）



（資料２：新聞に掲載された１年生の作文）



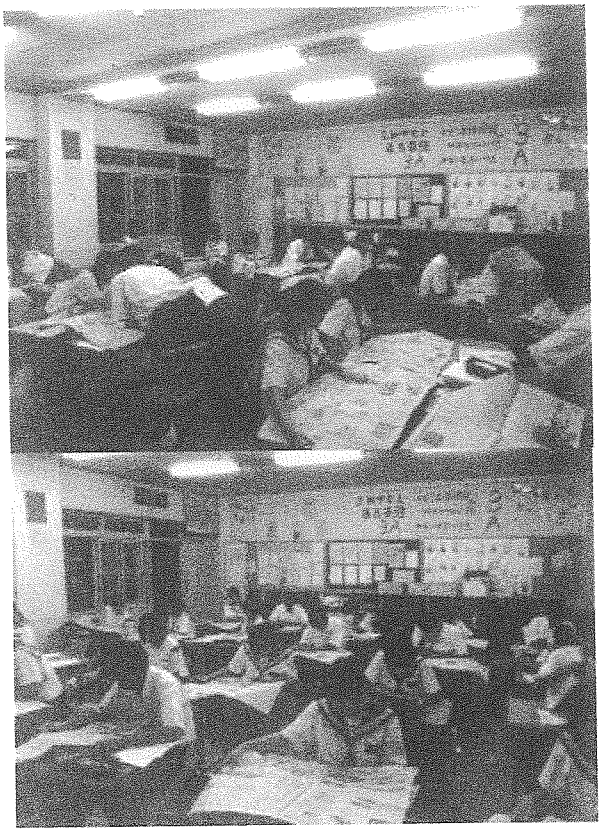
(3)　ＮＩＥコーナーの設置

各学級及び、職員室入り口近くの掲示板にＮＩＥコーナーを設けている。そこには、生徒が課題として取り組んだ作文や、新聞に投稿して掲載された作文の切り抜きを掲示している。教室に掲示した新聞記事やコラムの要約・感想をまとめたものについては、担任及び副担任が簡単なコメントを添えたものを掲示するようにしており、生徒は友達の取組を目にすることで、要約の仕方や感想のまとめ方を自分の表現に取り入れるなど、参考にしているようである。

(4)　新聞記事を活用した授業

今回の授業では、新聞記事に自分で見出しを付けることによって、その特徴や役割に気付き、要約の仕方を身に付けることができるようになるための学習を行った。新聞の記事は一般的に、見出し・リード文・本文から構成されており、リード文が本文の要約であるように、見出しもまた究極の要約であることに気付かせる活動を組み立てた授業を試みた。

（資料３：「見出しを考える」授業の様子）



4　終わりに

今回の活動の延長上に、社説を比較して、文章の構成や展開、及び表現の仕方の違いや効果について考える学習を予定していたが、諸々の事情で行うことができなかった。計画では、主張や提案の示し方、書き手の意図、論理の展開の仕方、主張を支える事実の選び方や取り上げ方など、表現の仕方について、共通点と相違点を整理しながら、論理の展開の仕方を学ばせるつもりであった。

新聞のコラムや社説は、報道記事とは異なり、書き手の価値判断が含まれている。そのため、まず、書かれていることの意味や情報を理解すること。次に、書かれていないことを推理、推論する力をつけること。そして、上記の二つを前提に文章の優れた点や不十分な点を吟味・評価・批判する力を身に付けることが必要である。

今後は、実践できなかった学習についても計画的かつ継続して取り組み、本校が目指している生徒の言語力の向上を図るようにしたい。そこでは、メディアを批判的に読み解く力を育成し、情報を受け手としてそのまま受け入れるのではなく、批判しながら受け取る力と習慣を育てるような学習を心がけるようにしたい。そのような学習を継続することによって、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」を身に付けた生徒を育成していきたい。

第３学年Ａ組　国語科学習指導案

平成２３年６月２９日

指導者　　岩倉　徳生

1　題材　　新聞記事に見出しを付けよう～「何がどうなった」を表現する

2　目標

(1)　（関心・意欲・態度）…略

(2)　（話すこと・聞くこと）…略

(3)　（書くこと）…略

(4)　新聞記事の内容をとらえ，文章を要約することができる。（読むこと）

(5)　（言語についての知識・理解・技能）…略

3　指導観【省略】

4　指導計画【省略】

5　本時の目標　○記事の見出しを考え，見出しの特徴をとらえることができる。（読むこと）

6　学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評　価	資料・準備
1　前時の学習を振り返り，本時の学習について考える。 (1)　アンケート結果について知る。 (2)　見出し・リード文・本文の構成を確かめる。 2　学習課題を設定する。	○　生徒に尋ねた問いの結果について知らせる。 ○　新聞の紙面構成について振り返らせ，本時の学習の見通しをもたせる。		模造紙
見出しの役割について考えよう。			
3　新聞の見出しを考える。 (1)　新聞を読んで気に入った見出しを書き出す。 (2)　見出しを空白にした記事を読み，見出しを考える。 (3)　実際の見出しと比較し，見出しの特徴について考える。 4　本時の学習を振り返る。	○　見出しを書き出すことによって，単なる題名ではなく，結論や結果まで分かるように書いてあることに気付かせる。 ○　必要に応じて相談させる。 ○　生徒の見出しを書き出す。 ○　助詞等の省略に気付かせる。 ○　本時の学習を振り返らせ，次時の学習への意欲を喚起する。	○見出しの役割を果たしたものになっているか。（表現力）	ワークシート